

循環器内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 坂田 泰史

その他、教授 8 名、准教授 7 名、講師 4 名、助教 22 名、
研究員 4 名、医員 22 名、技術補佐員 4 名、事務補佐員
2 名、病棟・外来事務補佐員 2 名

（兼任を含む。また、教授、准教授、講師、助教、研
究員は特任、寄附講座、共同研究を含む。）

2. 診療内容

当科は我が国を代表する循環器疾患治療施設として、特に難治性・重症疾患を対象に先進的医療を推進する体制を整えている。さらに、大学院医学系研究科で行われている世界レベルの基礎医学研究を基盤に、新しい診断・治療の開発にも精力的に取り組んでいる。狭心症・心筋梗塞などの冠動脈疾患をはじめ心筋症・心臓弁膜症・不整脈・肺高血圧症などあらゆる循環器疾患を対象とし、充実した診療設備を統合的に利用することでの確な診断・治療を行うよう心がけている。

本院は臓器移植法の施行後、本邦初の心臓移植を行った施設である。以来、移植前の評価、移植後の管理などを行う一方、心臓血管外科と協力して心臓移植適応検討会を定期的に（月 1 回）開催し、大阪地区のみならず全国的規模で重症心不全による心臓移植待機患者の登録業務を行ってきた。平成 19 年 4 月からは心臓血管外科とともにハートセンターを設立し、内科・外科の垣根をなくした一体化運営を行っている。

平成 24 年度に開設された CCU（循環器疾患集中治療室）はその後 6 床へ増床され、平成 29 年 1 月からは HCU として高度救命救急センター・ICU と連携の上、多くの緊急・重症患者を収容している。

冠動脈疾患に関しては高度救命救急センターと連携して急性心筋梗塞や不安定狭心症などの急性冠症候群の症例を 24 時間体制にて受け入れており、緊急心臓カテーテル検査を施行し、必要に応じて、経皮的冠動脈インターベンション（PCI）を行っている。心不全診療においては日本の循環器疾患治療における『最後の砦』としての責任を果たすべく最適な内科治療の実践に努めており、特に拡張型心筋症の鑑別診断、予後予測に力を入れている。治療抵抗性の重症心不全については、心臓血管外科と合同で回診・カンファレンスを行い、非薬物治療や補助循環装置の植え込みなどを行っている。頻脈性不整脈の症例に対して電気生理学的検査や電氣的焼灼術（アブレーション）治療を積極的に行う一方、ペースメーカーリード抜去の施設認

定を得て、多くの患者紹介を受けている。さらに、心臓の構造的異常、弁機能の異常（SHD）に対するカテーテル治療を積極的に導入している。大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）に加え、僧帽弁逆流症に対するカテーテル治療（MitralClip）、心房中隔欠損や動脈管開存に対する閉鎖デバイス治療も開始した。心臓移植後、成人先天性心疾患に関しても専門外来を設置し外来・入院診療を行っている。

近隣医療機関との連携を深めるため、循環器専門医に 24 時間電話が直接繋がりと、診療を相談するホットライン窓口（ハートコール）を開設している。このハートコールは院内における循環器領域が関わる患者急変にも積極的に対応している。

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

月～金。受付時間は午前 8 時 30 分～11 時 00 分、午前には初診患者を、午後は原則として再診患者または病診連携による紹介患者を診察している。毎日午後には虚血・SHD・心不全・循環器脂質・デバイス・肺高血圧・不整脈・成人先天性心疾患・移植後など各種循環器疾患分野に応じた専門外来を設けている。

治療に難渋し外来受診ができない全国各所の入院症例に対しては、依頼を受けて往診に伺った上で、転院を含めた治療方針を相談している。

外来スケジュール表

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	再診	再診	再診
	(4)	(4)	(3)	(4)	(5)
午後	再診	再診	再診	再診	再診
	(5)	(4)	(5)	(4)	(5)
() 診療枠数					

(2) 病棟体制

病棟医長 1 名、病棟主任 5 名、スタッフ（助教 8 名、医員 5 名）により診療及び研修医の指導を行っている。主病棟は東 9 階であるが、病棟再編により東 3 階病棟、東 8 階病棟も利用している。

病床数：50 床 研修医数：2～3 名

病棟スケジュール表

	月	火	水	木	金
午前	重症回診 検査 治療	重症回診 検査 治療	重症回診 検査 治療	教授回診	重症 回診 検査 治療
午後	検査 治療	検査 治療	検査 治療	検査 治療	検査 治療
夕方以降	内科外科 合同 カンファ	心移植 検討会 (月1回)	多職種合 同カンフ ァ 抄読会	病理 カンファ (不定期)	

(3) 医療設備

心臓カテーテル検査（放射線部）について、2基のシネアンジオ装置を用い、左右心カテーテル検査、心筋生検、冠動脈造影検査、経皮的冠動脈形成術、心筋焼灼術等を行っており、予定症例のみならず、必要に応じ緊急症例にも対応している。うち1基は世界で2台目となるアンジオCT装置であり、リアルタイムでのワイヤー位置確認が可能になり冠動脈慢性完全閉塞病変（CTO）を含む難治症例の加療に用いられている。PCIにおいて血管内エコー検査、光干渉断層計（OCT）に加え、CT画像診断の活用については先駆的の立場にある。心臓超音波検査については、ハイエンド装置を用い精度の高い検査を行っており、特に拡張機能検査に力を入れている。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

令和元年度外来患者数は28,448人であった。

冠動脈疾患、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心臓弁膜症、心不全、先天性心疾患、不整脈、高血圧症、高脂血症などのあらゆる循環器疾患を診療している。また、家族性高コレステロール血症、シトステロール血症、タンジール病、LCAT欠損症、原発性高カイロミクロン血症など指定難病の原発性脂質異常症患者の診断、治療も行っている。

肥大型心筋症においては、薬物治療のみならず、カテーテルを用いた心筋焼灼術（PTMA）も行っており、拡張型心筋症や心不全例においては、積極的にβ遮断薬を導入し、病態に応じた慎重なフォローを心がけている。また、左室収縮機能の低下がみられない心不全（HFpEF）が注目されているが、本病態の評価法・治療法の確立にも力点をおいている。ハートセンター開設以来、地域医療の中心的存在として病診連携の強化にも力を注いでおり、初診来と専門外来を開設し、その内容を年々充実させている。

(2) 入院診療実績：循環器内科の病床数は約50床

年間延べ入院患者数	16,618名
平均在院日数	15.3日
平均病床稼働率	90.8%

(3) 各種検査実績：年間の検査件数

心臓超音波検査	6650件
心臓CT	1368件
冠動脈形成術	211件
カテーテルアブレーション	174件
デバイス植え込み	164件
成人先天性心疾患のカテーテル	57件
核医学検査	793件
心臓リハビリテーション	7084件

(4) 先進医療、臨床研究など

日本医療開発研究機構（AMED）が主導する臨床ゲノム医療データベース事業や、未診断疾患の原因究明プロジェクト（IRUD）に、循環器主要拠点施設として参画している。AMED 革新的医療シーズ実用化研究事業として「心臓アセチルコリン感受性カリウムチャネル選択的阻害薬による遺伝性徐脈性難病（KACH チャネルロパチー）に対する新規治療法の創出を目指す開発研究」（医師主導型治験）を、また、医療機器開発推進研究事業として「革新的オンライン管理型心臓リハビリテーションシステムの医師主導治験」を行っている。更に、厚労科研原発性高脂血症研究班が担当する7つの指定難病（家族性高コレステロール血症ホモ接合体、シトステロール血症、原発性高カイロミクロン血症、タンジール病、LCAT欠損症、無βリポタンパク血症、脳腱黄色腫症）の診断のため、脂質異常症診断パネルによる遺伝子解析を行っている。

5. その他

内科学会認定内科医	84名
内科学会認定内科専門医	39名
循環器学会専門医	66名
日本超音波学会指導医	1名
日本インターベンション学会認定医	18名

施設認定：

日本内科学会教育病院
日本循環器学会研修施設
超音波専門医研修施設
日本不整脈心電学会研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設